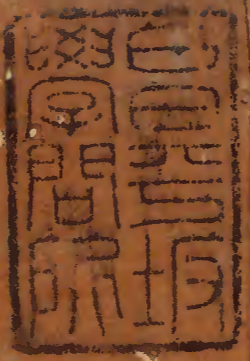


官刻 孝義錄

信濃

十



共五十

庫文閣内			
五	三		和
七	四		
函	五		書
二	八		
三	六		類
架	冊	號	

内閣文庫	
番號	和 34586
冊數	50 (10)
函號	157 398



孝義錄卷之十

信濃國

奇特者

中代菅支配所
高井郡小見村

奇特者

同支配所
高井郡小布籠村

孝行者

同支配所
依久郡内山村

孝行者

同支配所
依久郡輕井澤岩

孝行者

同支配所
依那郡片桐村田邊

孝行者

同支配所
同所

百姓

木邊大右衛門

四十歲

安永九年
泚褒賞

百姓

高井作左衛門

二十歲

天明六年
泚褒賞

百姓總為將

松

十一歲

天明八年
泚褒賞

無因百姓之君為後家

小川

五十六歲

寛政二年
泚褒賞

百姓

古志清

八十二歲

寛政三年
泚褒賞

古志清

与云清

五十一歲

同時
泚褒賞

孝行者 同支配所

孝行者 同所

奇特者 同支配所 高井郡中野村

奇特者 同支配所 高井郡中野村

奇特者 同支配所 高井郡中野村

奇特者 同支配所 高井郡中野村

奇特者 同支配所 高井郡江村

奇特者 同支配所 高井郡栗林村

○孝行者 同支配所 伊那郡羽廣村

孝行者 同支配所 依久郡和木村

奇特者 松平丹波守小預所 筑摩郡仁徳村

孝行者 同支配所 筑摩郡下西條村

孝行者 同支配所

○孝行者 同支配所 筑摩郡下西條村

○孝行者 同支配所

孝行者 同支配所 筑摩郡日出塩村

与妻清将

九 八 同時 沖慶長

專 二十歳 同時 沖慶長

傳右衛門 七十九歳 寛政五年 沖慶長

差左衛門 二十歳 寛政五年 沖慶長

林右衛門 四十歳 寛政五年 沖慶長

市右衛門 六十歳 寛政五年 沖慶長

庄左衛門 二十五歳 寛政五年 沖慶長

武右衛門 二十九歳 寛政五年 沖慶長

百姓惣助娘

百姓惣助娘 寛政五年 沖慶長

百姓 寛政六年 沖慶長

百姓 天明五年 沖慶長

百姓 寛政元年 沖慶長

百姓 寛政元年 沖慶長

百姓 寛政三年 沖慶長

百姓 寛政三年 沖慶長

孝行者

同領所
菟原郡上生坂村

百姓

清五郎

寛政五年

孝行者

同領所

百姓

清五郎

同領所

孝行者

同領所
筑摩守郡木山宿

市丸島

市丸島

寛政六年

孝行者

同領所

百姓

忠長

同領所

孝行者

真田右衛門大夫領分
水内郡越道村

各主

忠長

明和八年

奇特者

同領所
水内郡鬼無里村

町人

教之助

天明二年

孝行者

同領所
松代城下中町

百姓

赤平次

天明三年

孝行者

同領所
埴科郡東條村

無田百姓六助事

文次郎

天明四年

孝行者

同領所
埴科郡屋代村

無田百姓

久

天明五年

孝行者

同領所
埴科郡麻宿村

百姓

子之助

天明六年

孝行者

同領所
埴科郡東條村

町人

徳右衛門

天明六年

奇特者

同領所
松代城下者町

百姓

半右衛門

天明七年

○孝行者

同領所
水内郡三輪村

無田百姓五右衛門

源

天明七年

孝行者

同領所
更科郡小倉田村

町人

多

天明八年

孝行者

同領所
松代城下結屋町

町人平右衛門

勝

天明八年

奇特者

同領所
松代城下者町

く

天明八年

孝行者

同領 松代城下荒神町

町久心郎伯母

いし

天明八年 褒美

奇特者

同領 松代城下伊勢町

町幸守

八田孫左衛門

天明八年 褒美

奇特者

同領 松代城下伊勢町

町久

仁吉

天明八年 褒美

奇特者

同領 埴科郡岩野村

無田百姓

後

天明八年 褒美

孝行者

同領 更科郡東福寺村

無田百姓依去清娘

三

寛政元年 褒美

孝行者

同領 松代城下馬喰町

町入七之所母

ふじ

寛政元年 褒美

孝行者

同領 埴科郡屋代村

百姓

庄之原

寛政元年 褒美

孝行者

同領 埴科郡東條村

百姓

重左衛門

寛政元年 褒美

孝行者

同領 水内郡小湊村

百姓

市左衛門

寛政元年 褒美

孝行者

同領 松代城下伊勢町

町久

又

寛政元年 褒美

孝行者

同領 更科郡中牧村

百姓長谷川妻

いし

寛政元年 褒美

孝行者

同領 松平丹波守領合 筑摩郡白根村

無田百姓又七娘

いし

元文四年 褒美

孝行者

同領 筑摩郡清村

百姓

清右衛門

宝曆二年 褒美

孝行者

同領 筑摩郡東新村

百姓与去清娘

七

宝曆三年 褒美

孝行者

同領 安曇郡吉野村

百姓半去清妻

か

宝曆六年 褒美

孝行者

同領 安曇郡身振村

百姓又八妻

は

宝曆六年 褒美

孝義錄卷十

孝行者

同領 安曇郡三木村

孝行者

同領

孝行者

同領 安曇郡長尾村

孝行者

同領 松本城下東町

孝行者

同領 筑摩郡之方村

孝行者

同領

孝行者

同領 安曇郡富田新田村

孝行者

同領 松本城下東町

孝行者

同領 安曇郡大町村

孝行者

同領 安曇郡上本木村

孝行者

同領 安曇郡水室村

孝行者

同領 松本城下和泉町

孝行者

同領 安曇郡内膳新田村

孝行者

同領 安曇郡富田新田村

孝行者

同領 筑摩郡栢系村

孝行者

同領 筑摩郡栢田村

百姓

武志清

寶曆六年

卯年次

同時

文右衛門

寶曆六年

文右衛門

寶曆六年

本左衛門

寶曆六年

三十五歲

同時

六左衛門

寶曆九年

助

寶曆三年

無田百姓

万六郎

明和元年

百姓三右衛門

傳左衛門

明和元年

百姓勘左衛門

志右衛門

明和四年

町人

多助

明和五年

百姓五右衛門

之右衛門

明和六年

百姓基六娘

世

明和七年

百姓源之丞

之助

明和七年

百姓

基八

明和七年

孝行者

同領

孝行者

同領 筑摩郡松岡村

孝行者

同領 安曇郡下多根村

孝行者

同領 安曇郡真々村

孝行者

同領 安曇郡浪田見村

孝行者

同領 筑摩郡小島村

孝行者

同領 安曇郡埴崎新田村

孝行者

同領 安曇郡狐島村

孝行者

同領

孝行者

同領 安曇郡堀之内村

孝行者

同領 安曇郡中村

孝行者

同領 安曇郡立足村

孝行者

同領 松本城下山家小浜

孝行者

同領 松本城下竹勢町

孝行者

同領 松本城下小池町

忠孝者

同領 松本城下本町

五八妻

五

百姓与七娘

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

里津

同時

世ん

安永三年

友松

安永五年

紋之丞

安永五年

安六郎

安永五年

森三郎

安永六年

浜右衛門

安永六年

友七

安永七年

如屋

同時

吉原門

安永七年

市右衛門

安永七年

庄六郎

安永八年

忠五郎

安永八年

安六郎

安永八年

庄右

安永八年

友七

安永八年

孝行者 同領 松木城下東町

孝行者 同領 安曇郡木船村

孝行者 同領 安曇郡木船村

孝行者 同領 筑摩郡三津村

孝行者 同領

孝行者 同領 安曇郡須呂村

孝行者 同領 筑摩郡吉田村

孝行者 同領 安曇郡細野村

孝行者 同領 安曇郡富田新田村

孝行者 同領

孝行者 同領 安曇郡青木花見村

孝行者 同領 安曇郡上本木村

孝行者 同領 安曇郡等々力村

孝行者 同領 安曇郡野村

孝行者 同領

孝行者 同領 安曇郡七日市場村

町人八助伴

百姓

百姓

百姓 李去清伴

李去妻

百姓 八去清伴

百姓 三所去清伴

百姓

忠助 安永八年

左去清 安永八年

李去妻 安永八年

李去妻 安永九年

八去清 同時

三所去清 安永九年

七之五 安永九年

九去清 安永九年

助在 同時

久去清 安永九年

次去清 安永九年

久太郎 天明元年

久太郎 同時

奥太郎 天明二年

奥太郎 天明二年

孝行者

同領 安曇郡一日市場村

百姓

長九郎

天明二年

孝行者

同領 安曇郡小倉村

百姓甚平妻

之介

天明二年

孝行者

同領 安曇郡新屋村

百姓

由右衛門

天明二年

孝行者

同領 同所

由右衛門

百七郎

同時

孝行者

同領 安曇郡切久保新田村

百姓持七郎

勝五郎

天明二年

孝行者

同領 安曇郡牧村

百姓

佐左衛門

天明二年

孝行者

同領 同所

佐左衛門妻

如

同時

孝行者

同領 安曇郡大町村

百姓

持次郎

天明二年

孝行者

同領 安曇郡依表村

百姓若七郎

勝五郎

天明二年

孝行者

同領 松本城下本町

町人

差十

天明二年

孝行者

同領 安曇郡上押野村

百姓孫之丞娘

多

天明二年

孝行者

同領 安曇郡浪田見村

百姓文左衛門持

色

天明二年

孝行者

同領 筑摩郡三才村

百姓本去清伴

盛

天明二年

孝行者

同領 同所

同娘

里

同時

孝行者

同領 安曇郡塔之角村

百姓甚助伴

弥

天明三年

負者

同領 筑摩郡益治村

無田百姓孫助妻

志

天明三年

孝行者

同領 松本城下宮村町

町人源右馬娘

三十九歲

天明三年

孝行者

同領 安曇郡及木村

百姓

三十九歲

天明四年

孝行者

同領

吉原馬車

三十九歲

同時

孝行者

同領 安曇郡新屋村

百姓武右馬將

三十六歲

天明四年

孝行者

同領 筑摩郡下園田村

百姓安之妻

四十九歲

天明四年

忠義者

同領 松本城下本町

町人

三十九歲

天明四年

孝行者

同領 松本城下和泉町

町人源右馬將

三十九歲

天明四年

○奇特者

同領 安曇郡松崎村

百姓

三十六歲

天明四年

孝行者

同領 松本城下和泉町

町人源右馬將

三十九歲

天明五年

孝行者

同領 安曇郡耳塚村

百姓源右馬將

三十九歲

天明五年

孝行者

同領

金原妻

同時

同時

孝行者

同領 安曇郡田多井村

百姓

三十九歲

天明五年

孝行者

同領 安曇郡寺家村

百姓清六將

三十九歲

天明五年

孝行者

同領

田娘

同時

同時

孝行者

同領 安曇郡下掘金村

百姓平次郎娘

三十九歲

天明五年

孝行者

同領 松本城下博勞町

町人源右馬

三十九歲

天明六年

孝行者

同領 松本城下博芳町

孝行者

同領 安曇郡于見村

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 流摩郡村井町村

孝行者

同領 松本城下本町

孝行者

同領 安曇郡及木村

孝行者

同領 安曇郡中萱村

孝行者

同領 安曇郡古地村

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 同所

○孝行者

同領 安曇郡埴鳴新田村

孝行者

同領 安曇郡切窪新田村

孝行者

同領 筑摩郡南新田村

孝行者

同領 松本城下佐勢町

孝行者

同領 松本城下中町

孝行者

同領 安曇郡青木花見村

町人長久保村

長之部

天明六年

百姓次所長久保村

利右衛門

天明六年

利右衛門

巳

天明六年

百姓孫長清妻

依

天明六年

町人

新右衛門

天明六年

百姓清五郎 法家

け

天明七年

無田百姓清五郎妻

け

天明七年

百姓清八郎

仙次郎

天明七年

百姓

長右衛門

天明七年

長

天明七年

百姓城在島

長

天明七年

百姓七左衛門

長

天明七年

百姓百姓半助娘

長

天明七年

町人長久保村

武

天明七年

町人之平伴

武

天明八年

百姓

長

天明八年

孝行者

同領 院摩那庄内村

孝行者

松平保平領分 小縣那本海野村

孝行者

同領 小縣那房山村

孝行者

同領 小縣那十人村

孝行者

同領 小縣那踏入村

奇特者

同領 更科那梅島村

孝行者

同領 小縣那上坊屋村

孝行者

同領 上田城下様町

孝行者

同領 上田城下町

孝行者

同領 小縣那中後村

孝行者

同領 小縣那子塚村

孝行者

同領 小縣那藤木村

奇特者

同領 小縣那房山村

奇特者

同領 同所

孝行者

同領 小縣那馬越村

潔白者

同領 小縣那岩島村

百姓新助娘

い七

寛政元年

百姓新助娘

了七

安曆十年

百姓新助娘

長七

明和六年

百姓新助娘

妙七

明和六年

百姓新助娘

そ七

安永七年

百姓

撞七

天明二年

百姓

文七

天明七年

町人借居住

仙七

天明四年

町人借居住

か七

天明六年

百姓

そ七

天明七年

百姓

佐七

天明七年

百姓

加七

天明七年

百姓

忠七

天明七年

百姓

丸七

天明七年

百姓

富七

天明八年

百姓

發七

天明八年

孝行者

同領 小縣郡藤末村

孝行者

同領 小縣郡子塚村

孝行者

同領 小縣郡法野町

孝行者

同領 同所

○忠義者

同領 大和守領分 萬遠郡下本町

孝行者

同領 洗訪郡信守領分 洗訪郡小和村

孝行者

同領 洗訪郡小和村

孝行者

同領 洗訪郡神宮寺村

貞良者

同領 洗訪郡下桑末村

○孝行者

同領 洗訪郡金沢町

孝行者

本多量後守領分 水内郡石村

忠孝者

同領 大和守領分 伊那郡彦光寺村

忠孝者

同領 同所

孝行者

同領 飯田城下櫻町三丁目

孝行者

同領 伊那郡秋料村

孝行者

同領 同所

書百姓本吉馬乃將

勘六郎

寛政元年 寢美

書百姓林全

良八

寛政元年 寢美

町人湊本惣右衛門

若右衛門

寛政元年 寢美

同

勝次郎

同時 寢美

町人量後守領分

若右衛門

天明元年 寢美

大工

次左衛門

宝曆四年 寢美

百姓

李左衛門

宝曆四年 寢美

書百姓定高城洗訪上社山女

西畢

安永三年 寢美

書百姓源清平五郎兼

三光

天明八年 寢美

百姓若原兼

津名

寛政二年 寢美

書百姓小右衛門將

公右衛門

安永九年 寢美

百姓子助護代下男

助右衛門

享保十二年 寢美

町人若原兼

由左衛門

同時 寢美

町人若原兼

若不知

享保十九年 寢美

百姓

孫七

元文三年 寢美

孫七婦

若不知

同時 寢美

歲不知

一三

孝義錄卷十

孝行者

同領 飯田城下本町三丁目

忠義者

同領 飯田城下田町

○忠義者

同領 飯田城下松尾町二丁目

孝行者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

○貞義者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

忠義者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

孝行者

同領 俵那那下市田村

町人平九郎家代

新之丞

明和四年

町人久米下男

年七

明和四年

町人宿屋住

後助

明和四年

庄屋

平九郎

明和四年

庄屋

与右衛門

明和四年

百姓平松門下者園七郎家

七郎

明和四年

百姓

四郎左衛門

明和四年

百姓

平吉

明和四年

早吉子

文七

同時

百姓平島下男

半平

明和四年

百姓

長右衛門

明和四年

百姓姓是七妻

里人

明和四年

百姓

源之丞

明和四年

百姓

弘治右衛門

明和四年

百姓

平五郎

明和四年

庄屋平島下清吉郎

清一

明和四年

孝義錄卷十

十三

孝行錄卷之十

孝行者

同領 佐那那田村

孝行者

同領 佐那那野村

孝行者

同領 佐那那山村

奇特者

同領 佐那那山村

孝行者

同領 佐那那山村

奇特者

同領 飯田城下 佐尾町二丁目

孝行者

同領 佐那那後谷村

孝行者

牧野周防守領分 佐久那山浦村

○孝行者

同領 佐久那八洲村

○孝行者

同領 佐久那下之藏村

奇特者

同領 佐久那森山村

○奇特者

同領 佐久那山郡村

奇特者

同領 佐久那望月岩

奇特者

同領 佐久那山山村

孝行者

同領 佐久那下之城村

孝行者

同領 佐久那山浦村

庄屋長三郎下

無百姓

庄屋長六郎下

庄屋長五郎下

庄屋長四郎下

町人大工長右衛門才下

百姓平六郎

善百姓儀左衛門下

百姓定吉儀家

百姓

百姓

百姓

無百姓吉三郎下

百姓

百姓定吉儀家

無百姓吉三郎下

長平次

明和四年 慶長

作右衛門

明和四年 慶長

八

明和四年 慶長

庄

明和四年 慶長

源左衛門

明和四年 慶長

知玄流

安永元年 慶長

祢

天明四年 慶長

桑次郎

宝曆十一年 慶長

己

安永元年 慶長

定之丞

安永六年 慶長

持右衛門

天明三年 慶長

高橋傳次郎

天明三年 慶長

久

天明六年 慶長

儀左衛門

天明六年 慶長

佐

天明七年 慶長

鹿石

天明七年 慶長

孝行者

内友志摩守領分
依久那小田井村

孝行者

同領
佐久那赤村田花町

孝行者

同領
同所

孝行者

松平橋味守領分
水内那枝堂村

孝行者

同領
依那那大森平岩村

孝行者

同領
依那那中村

孝行者

同領
依那那山田内村

孝行者

同領
依那那山本村

○孝行者

松平大欣知行所
更科那川中釜合井村

孝行者

同知行所
更科那中水延村

孝行者

同知行所
更科那上水延村

孝行者

同知行所
更科那上水延村

孝行者

同知行所
更科那上水延村

孝行者

同知行所
同所

孝行者

同知行所
更科那上水延村

孝行者

同知行所
更科那上水延村

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

大工

百姓

百姓曾意

百姓松右

百姓

百姓

無田百姓

無田百姓

目

百姓

百姓

七

天明五年

八五郎

寛政元年

子

同時

与右

貞享三年

吉

貞享三年

金四郎

安永元年

甚右

安永八年

加

天明元年

孫曾八

寛政三年

伊平次

寛政三年

名

寛政三年

名

寛政三年

名

寛政三年

名

同時

名

寛政三年

名

寛政三年

名

寛政三年

孝行者

同知行所
更科郡埜崎村

百姓

久松

寛政三年

孝行者

同知行所
更科郡埜崎村

百姓

成右衛門

寛政三年

農業出精

同知行所
更科郡埜崎村

百姓
百姓松原島村

惣右衛門

寛政三年

孝行者

同知行所
更科郡埜崎村

百姓

成右衛門

寛政三年

孝行者

同知行所
更科郡埜崎村

百姓

源四郎

寛政三年

農業出精

同知行所
更科郡埜崎村

百姓

茂左衛門

寛政三年

農業出精

同知行所
更科郡埜崎村

百姓
百姓七之島村

久左衛門

寛政三年

農業出精

同知行所
更科郡埜崎村

初之助

寛政三年

農業出精

同知行所
更科郡埜崎村

百姓

往左衛門

寛政三年

農業出精

同知行所
更科郡埜崎村

百姓

次郎助

寛政三年

農業出精

同知行所

百姓

音次郎

同時

孝行者

座光寺伊奈助知行所
仔那助上平村

仁左衛門

仁左衛門

天明三年

孝行者

同知行所

名不知

同時

新編 徳川実録 卷之七

十一

奇特者木嶋太右衛門

高井郡小見村の百姓木嶋太右衛門は田畠ありて
く家のうち暇くとも小耕作をともせし酒つく家
ごとと業をせしむる生業も又豊ありて太右衛門
七代つとて一も角海ふをいし事なく
世くゆりやうり家をあてめころう甲も父乃
愚跡よりをたぬよりのいしめておけし
くふはらやあひ様をまもの役ゆおも江戸の
陳屋のきことあてて外しぬ事ありい
乃あもくも割れ乃とてぬり時いし風

新編 徳川実録 卷之七

十一

とまゝにさしつかへもなき中なるのもれをとりまゝの
 とありと孝義の心ぬく主婦より物々乃欲
 食を以てあつらひるるるを其れ食との人殺の起ふかと
 申らしてさあぐ小安をとり父乃傳よいつる時を
 中級二人をとりしてまゝさつめ帰るはあひよひ遊く
 下入をとりらせむの已もりなき小安をいして家内
 乃まもつりしぬくそじり物なきは親族乃ま
 しつらひむじりぬくまほらるるも乃あはれを
 の田をとりさるるまゝにありつりやじりぬあり
 とさつてさつらつら訪ひてなきとさるる有はひさり
 念はよぬ抱せしりの親族も頼りしとこれよひさるる
 ひ親しきと信ずものをとりぬくお出いらまゝぬくも
 そのけいひおあひさるる村子曲川よそいして村のさ
 百三十八名ありありし元文三年よりそのころ
 遊りつりて田畑を押流し八十名もさつらけれは
 村人住むいさく難敷とていへえりいさるる流く是
 と致して利養をさつらと金銀をとりあつて隣村の田畑と
 質よとりせとも南鴨と東水鴨とさつら申村中見よひ
 田村の田畑を質よとり買さつらつらりあつて買さる
 ように作らせられぬくも家田畑よむとさつら利を

地々耕作の力と云々ありその中にも多ありて
 ともくあんなうと云々ありものいふと云々あり酒
 つりり油あつたといふと云々あり年迄もあつたといふ
 種々の種ひてその安堵をもめさせしむる難敷といふ
 ありとも云々ありといふと云々ありこれより云々
 子曲川洪水せしつて父の愚跡百六十俵の支とあつて
 能く人を救ひさせしむる家つとて後明和二年おろし
 六年の洪水もも交脚を振りしける事二百石を
 くの云々安永八年八月廿四日の夕より廿六日の朝中
 西風烈しく云々津雲坂井下木橋のと村水と云々
 出く金倉といふと云々云々云々云々の云々
 へく飲食のあつたけと云々云々云々云々
 ありとも云々ありつと云々云々云々云々
 ありとも代官若出候と云々云々云々云々
 二月寝巻ありて寝あつた帯刀の男と云々云々
 ありとも云々云々云々云々云々云々云々

奉行者龜松

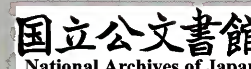
龜松の佐久郡内山村の百姓惣右衛門と云々云々
 上野の境ある破風の禁よと云々云々
 ありとも町と云々の備と云々云々云々

さらる書小をとりて並て天明八年九月廿六日の夕
 うい父子ういこふまふひゆい龜松のういふありて
 弟より父の意を承りてもなりけれ小をより父を養
 てありしういこふのういこふの復つとあり
 ういこふのういこふの復つとありてありてありて
 せしうい復又養うり眼をうけてありてありてありて
 叶うしういこふの復の早とつとありてありてありて
 母の龜松あましくせまの鎌をとりてたよつとあり
 けりてありてありてありてありてありてありてありて
 て鎌柄をとりてありてありてありてありてありてありて
 あまのこありてありてありてありてありてありてありて
 せしういこふの復の鎌柄をとりてありてありてありて
 牙とつとありてありてありてありてありてありてありて
 をとりてありてありてありてありてありてありてありて
 そり父のあましくありてありてありてありてありてありて
 けりてありてありてありてありてありてありてありて
 ぶういこふの復のういこふの復のういこふの復のういこふの復
 てありてありてありてありてありてありてありてありて
 ういこふの復のういこふの復のういこふの復のういこふの復
 はその年九月癸亥として復そくとしてありてありてありて

孝行者のほ

佐久那津井津若ふりつとふおもりのまのえをきつ
い田畑もあらう百姓もあらう老るる始おつた三人
の子はあししきて安永七年のうらむらつたつたつた
あやうの始つたつたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
稚子と引つきて後の村乃日産いよもゆらけるうね
る始の一人ある事と思ひく風前のとまやうつたつた
ゆりぬ始の老のあらういよもく食物の好とまやれはつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
とつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
その後らよとらうく天明三年浅弓うねやけつた
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
らとと田畑があらうて産ぶ人もあらうねの穀物の價さつた
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
の助をともあらうねの始と養物もつたつたつたつたつた
とつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
伯母の懐とつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
いのつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた



その身をとりめ初らば子にまじりてこれもあるこれ
 乃ち高しれ葉木の葉とらりて食らけりかそれと
 なるに不捕をて袖にひの笹葉のたしとらやうく
 不捕をて飢を志のへるさあやを村乃ちもあてま
 かりてとあられをかとあてふれらも姑の物々乃食に
 備へて己の終日おくるくもあやまらうしとあん
 同は四年のちも又凶作して泳増しれ貧しとあれ
 と姑のまじいふいふ事あやのけまは村人も感して
 食をよと贈りて助けらるにさるし秋の終りて姑の
 病よふしとあやまのちあけりともく次男の佐吉
 平もふとさうさうの親族にありまきて親を慕ひ
 つ入し事その里人乃捕へおふりりて代は佐吉
 友ふ希うくとあえあまれは不獲い其の報とことく
 とあうりし寛政二年二月乃事あるとい

孝行者古き法

孝行者古き法

伊那郡片相村のうら田邊といふ不若老き法として田畠
 乃ち四十と石ふ斗ありおて豊よあまらせら百姓
 ありもとりり海あやうあまつといふく家の内睦く
 とも不耕作といふて忘ら事か父も若老き法

といひて、或時庭の塵拂ふとて、帚の柄を
 ん掃ふとありて、ことあるもあつる事よと人
 つぶやくといひの吉き満ちあつた例よありとく
 もよあやうらあいつらうといひて、父子向ひて、祠を
 拜いせりといひ、今にりひかつ、後悔の涙とを催し
 けり父の老よ、浴とる事と好むといひ、あやうらうら
 水くそ風を平たいて湯をいそを及のほい、おれとけい
 二里ハりの備ふるよ、よめて、茶とあつる事、老のる、
 らうらうら、人のあつ、ぬる、寝とく、あつらうて、け
 り、い、い、路のを、あつ、い、人、息とて、帰り、例の、とく、に
 湯あつ、と、せ、う、の、父の、老、ぬ、る、後、ハ、お、毎、日、度、不、を、離
 せ、と、い、ま、と、お、い、ま、と、懐、よ、入、く、暖、め、二、使、の、通、ひ、や、も
 怒、よ、け、ひ、く、の、例、の、ま、く、い、て、父の、労、せ、ん、事、と、ん、う
 くらひ、ひ、お、お、の、あ、た、ら、ら、よ、あ、う、ま、ん、と、い、ひ、ら、ら、よ
 父の、様、ら、ら、ら、を、厭、ひ、ま、れ、い、う、よ、も、潔、く、あ、つ、ま
 ら、と、い、く、か、と、泣、よ、あ、つ、よ、と、い、く、ん、の、と、く、に、當、み、建
 二、使、の、度、毎、日、の、つ、ら、く、様、と、ら、る、事、と、考、と、と、父、老
 せ、よ、い、あ、せ、り、後、ハ、ま、い、と、い、お、よ、お、と、ら、と、あ、つ、ら、村、里、と、い、く
 と、も、お、お、と、ま、祿、と、く、と、あ、れ、る、事、と、あ、つ、一、年、後、以、乃
 事、よ、あ、つ、と、名、の、後、二、里、あ、つ、故、意、町、と、い、ふ、事、乃、陳、登

九ハ耕作のつとめせらるゝといふも母よりしる食
 おとといつら洞一す免て人れまにけりてあは
 きるはちやくうりものうし軍や好と論語小學の
 去ともまひし一十六歳乃以耕作のつとめしけりて
 甲斐へとして父のつとめしりもらりてとあるるを
 といひしはふらぬりといふもあていふはよむといひ
 といひしは後、その業をとして、農事とのつとめたり
 甲斐のものなりといふもあていふはよむといひ
 新吉やえあまといひ甲斐のりれよは獲りての娘の
 といひしは一歳しれあり時ハ寛政三年二月乃とあり記

孝行者もよ

もよハ保那郡羽廣村あてき一石と斗もてる百姓惣助
 一は妻女あり惣助ありと飛彈あまのものあてけり
 といふて妻女らるけりけり生賃やうく父母乃よ
 といひしは他人のむしよもそむける事るく菓子る
 人よ費いぬれハ必持帰りて二親ふとせ母乃あてふ
 ろと待て食せり惣助まぬも殊よをいしと妻いしハ
 明和七年の旱魃よ遠てせりてりあてりといひ妻
 子と具して南宮寺地村といふふよさあてひまう、は
 け村よ移りてといふ費このあてりにいひよ十一の奉平次

村乃平之妻とす。ふゆのふゆとせしむるは主人を
 云ふ。ふゆのむと親の奉けしものと同おさる
 ぬふあけらるるをともせしむるのいふあふとく
 かりし人も懐とせしむるものよひあへり成る
 せしむる程よきといひて後報をあらはせ其の衣履を
 も着せ有菓子やられものをも折ふゆきてとら
 せしむる使里もとめしむる親乃許しゆりあるその餘乃
 休日にもあつと費して父母よりあつとせしむる懐ある事な
 と懐を出して親の心とあつとせしむる夜の懐つけりか懐
 して親の心とあつとせしむる親乃病ぬらとく
 せしむる親もあつとせしむる親乃の家の仕事や
 あつとせしむるその懐よりあつとせしむる懐とく
 の食物ともあつとせしむる懐よりあつとせしむる
 いふもあつとせしむる懐よりあつとせしむる
 屋敷人へ事繁る日も労苦の多き親乃の心
 ありして親乃の心よあつとせしむる一日の志
 あり仕へしむる人もあつとせしむる家養子ともあ
 してあつとせしむる懐よりあつとせしむる
 いらよいあつとせしむる乃あつとせしむる
 父母のやうくよあつとせしむる二十乃時あつとせしむる

て家小帰せしむし一親とまひるゝの天の年
 の凶作よとて遠て艱苦もとんく種くのをと
 たり難へある食物の内もくもくを撰いで父母
 小く先を公せし頃終へる纏乃衣服あやしく器
 物あてむとて愛代りてせしむ言とけり三年
 さらぬ母の病よとけしれもつて今抱ゆるを
 好この食物志るゝある醫業をもめるといふ
 事ありよとてしむるゝもあつてしむるゝ日数ある
 あり寝食をもして後るゝとて必墓の情
 しく音もよとけし器具とせしむるゝとて
 ことつ物せして年月長る事ありとて
 惣助らよをせしめて後人の男子とせしむるゝ
 名つせしむるゝとてしむるゝとてしむるゝ
 とつめく父を養ひたる人の儀とせしむるゝ
 物ありしに母の涙助に父ありしに母ありて
 産業をもつてしむるゝとてしむるゝとて
 つせしむるゝとてしむるゝとてしむるゝ
 ことしむるゝとてしむるゝとてしむるゝ
 諸せん事と預ひるゝとてしむるゝとて
 是は田作の起しとてしむるゝとてしむるゝ

父のいぬらと何ひききとて系とてりてて福乃用
度な個へ寛政四年父と伴ひて出立ける父のいぬら
七十九ある切事もよくしつら福のいぬらと腰
をくし山坂をいぬらと七十里なるをいぬらと
くぬ抱して秋のゆよゆらぬ志のをさういぬらと交
ひして睡くた乃ゆひいぬらとて事ありしつら
遊さくわらういぬらとをりてるもれ下女めいぬらと見
あつて世してゆきと後とをあげける代友水谷祖太助つら
くとすえあきつてつら同とて六年の八月を孝と寝換ひ
つらつらいぬらと根助つらを孝と持来とめつらつら

孝行者六右衛門

孝行者佐左衛門

筑摩郡下西条村乃百姓よ六右衛門佐左衛門とて兄弟
乃とのあり知とてつらつら合せとて父母にうつらつら
耕作よかとてつらつら父のせつらつら田高とてつらつら
弟の佐左衛門よ田畑をりつら家をあつらつら別よとて
せつらつらも家事もありつらつらつらつらつらつら
も隔をよとてつらつら弟の末を字んつらつらつらつら
つらつらに仕立とてつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

とひいて明和のころめりせりしかる日より日
 毎に墓より詣りて二十一年あがり今に一日をもりあ
 うぬ神のまほしきも同ふるよしを詣りてけるぬふ中にいん
 て何くれり好と事多しと云見事と云合せくその心
 まいり人妻も見あひしてうらつら事ぬにといひ
 て計ひいさうもそのまほしきとせしめくふあへ人並
 とさしとひるれとも下人をもちとさともあ家のも老
 賤くといひうりてともよ世後の事の業とてをいけりさ
 村松半丹波守のあつり治めく貢金をあるり一この
 とさうり取れを係とて村里の道ともありぬとい
 て中へうくし實政元年二月に云事つよ清康の弟
 そこくくと場をいひと徳友弟つふ弟の奉りせしき
 あつりし

孝行者市左衛門

筑摩郡平山宿の百姓市左衛門の父を長九郎とひいて
 極めて多病のもれりしと耕作のつとめとあらうと
 田畠れきりしつと計しつと非あり括く因窮いしん
 るるのしくえ市左衛門の人の田と小作りぬある
 時ハ親といひのよりつと金のうりて別れる烟草と行へ
 尚ほの飯田尾張の谷古をよりて高ひとらんと價を

海防に父よとせよと悦ぶるはつ事くはるはよ
 もてあり候ゆのもそのふよさうふ事あり父の病
 よぬくぬらひらきしてふとさう母子うらなく例よ
 そひるしに抱せしよ安永四年七十九歳よりくうせ
 り一日く墓よあうしてえさうぬ用よあらうれと
 一日もく事うぬ歎これゆのやううくにと
 ろふ妻にのよ出ぬ時親こ人よ軽と並一人の
 抱ふ若くけあれの親族もあえれとて妻よめとれ
 すると初めけせしもあま一むの妻よ違て母
 らんよけしとて孝義録にさうりもあうらんかろあ
 らむとさうの一人は扱ひさうゆん心もさうめい
 うけつさうりさうとていんさうりしてらもさう
 むの弟よあうゆも心のさう事うぬ母のふも
 さうらへくさうあうらよ初め母も志あうくやえ
 らの天明六年洗馬町乃百姓奥右衛門娘とらとら
 とあうらうさう又あうやうものくさうも姑ま乃
 んよ道とて親族の中うらもいと睦く一人乃男子を
 まうけて世奉るよあうあうさうさうさうさうの
 候るさうあうれも是者これにあらうく凍くあ
 さうさうの業こあうさうさうさうさうのせ時乃

孝義録卷十

三十一

男も例をさうと記外とせしけぬらるるやとせ
 これももらうも厭ふらうと悲ふらうと母も
 斜るらうと恨い粉ひらる人も二人の事と知りけ
 れぬと木のまのむりめ村乃長も信ふてて時よ機
 を加へまうぬいあもともうく者よ家よのこのあ
 げと市左衛門海く款とくおらあてていふよら
 へうと負てふのまにらうとあまらうとくよ若く
 ありて家カも兼へ機路乃高いらうとてあよら
 るれの名吉を飯田の辺よはらうと價乃残るも
 せしとていふとていふとていふとていふとていふとて
 ぬいれも路より信と出せる昔もとていふとていふとて
 の月とみ里のうら目よ往來とていふとていふとて
 一巻どもあよ明せし事とて然るよはらうと四月乃
 ころ長室といふとていふとていふとていふとて
 て茶物をもうくよ新とていふとていふとていふとて
 急とて家よゆりぬらゆらぬらとていふとていふとて
 あひらうとていふとていふとていふとていふとて
 是の四十里の名残とて替よ負てぬらぬらとていふとて
 里ぬれ者よあまとていふとていふとていふとて
 色所乃風とていふとていふとていふとていふとて

人のものよりあはれむことなき孝人も感して程躡り
 して人あはれむ風をよみてあはれむ事なればなれば
 してふらふゆゑとせむのけ里も松平丹波守の御方
 治む方なる事をもく親をよむ事なればその孝と賞し
 ざるものことぞえあきしその寛政六年閏十月清
 養堂とてあはれを孝の枝持衆とあひまはぬ
 よの親湯の事なればなれば

孝行者源流

水内郡と輪村乃百姓源流はとてなり父の後れ
 家柄めく尊し世後世の事柄なることなり
 中六の養育なりゆり給養と母の徳りけり後いつら
 をあはれぬ事ゆりいひて耕種よりとて海
 東にゆく事なればなれば母をよむ事なり
 母もこの事ゆりいひて母をよむ事なり
 ありけり起母もこの事ゆりいひて母をよむ事なり
 田畑の事ゆりいひて母をよむ事なり
 ありけり出母もこの事ゆりいひて母をよむ事なり
 乃ちの事ゆりいひて母をよむ事なり
 ありけり今の妻れとて母をよむ事なり
 もらふこと或は人の指れ或は市の指れとて母をよむ事なり

さいこのをさぬれい必求め悔りてさうむ農事作し
 此時も田植入るもさうなかりしつゝ米穀よむひゆさ
 米穀うらしつゝいふさしよさつゝいふさつゝいふさつゝいふさ
 さいのたをこせめつゝいふさつゝいふさつゝいふさつゝいふさ
 よ米穀の財いぬくつゝいふさつゝいふさつゝいふさつゝいふさ
 湯のふよひむ事よむけつゝいふさつゝいふさつゝいふさつゝいふさ
 母と籍つゝいふものよめつゝいふの程七里あるさる井跡
 田中つゝいふさつゝいふ母りて母をこも孫のつゝいふさつゝいふ
 つゝいふさつゝいふさつゝいふさつゝいふさつゝいふさつゝいふさ
 領主よめえて天ぬ七奉み月より母乃月を終る為
 て杖持茶とつゝいふせ田島の課役をゆりしてさうを
 あらつゝいふさつゝいふさつゝいふさつゝいふさつゝいふさ

孝行者さつゝいふ

さつゝいふ筑摩郡白坂村よむさつゝいふ田の百姓又七娘あ
 り父いそ八奉ふのつゝいふ病てあさもつゝいふく耕作の
 つゝいふもふよあつゝいふせつゝいふ兼履兼鞋とつゝいふてさつゝいふ
 うらせ母ハ奉以眼と痛て目しむとさつゝいふ身の人あ
 りけつゝいふ兄いすつゝいふ次つゝいふ兼るさつゝいふ世後つゝいふれ助とも
 ありとつゝいふ初の程いふ縁のもれつゝいふ村の長つゝいふれを

まつたれらつともあへげのそれさうましくよふ
 のまのいふたの磯の田島と徳作してその日と送
 らうはさたれし又の影とありて夢志あつて
 さあしつらあをさうしほして父母と申のまを若
 志のせ草木の芽まの田螺をとりて市にうり
 夏の田植秋乃刈入の頃よの人の雇を運るさうて
 やうくよ細さ烟をさくらう雇とれ乃勤めもを
 ろそのあらさうしつらも嫌う人華うりハ價とそ
 加へる冬ハ芽とさうして世後のの助けとさうしつら
 してさうしつらとさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 して日毎の市よとさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 町といふ所ハ味お勝色しとさうしつらとさうしつらと
 必おめりく家とさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 膏のしつらとさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 たつた近きさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 といふお繋けさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 小のさうしつらとさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 して價の糸もさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 しての後の市人もさうしつらとさうしつらとさうしつらと
 とあつらうともあつらうともあつらうともあつらうとも

若菜金卷十

三十一

いらものとせしす事よの義又いつあると身よあるとい
 書の教雨の夕をもいととて登業といとまといつて
 よ一日のいことりもあて父母世帯いかさうさかて後二親とを
 ふうせらふつといふことあられうとていつあるとあふも
 その身のもう人をさうてあてふまておめけまいつり
 身よふらうとてあてめんよ初さそ名の乃がらうりめ
 さあよんん事も是業うつとてくるは二人の身
 を悲しき言うつとておめけまよあえて元文四年
 十二月癸亥の物らうせけり

孝特者年云書

安曇郡松崎村乃百姓年云書いふあり篤実のつて
 田畠あふつともとるとのつらか天明三年を凶作せ
 一財二百俵の穀を売して賣さものと旅いづれ山
 乃粟米のつてとあつともものをああつて往へをさ村
 へれものよも旅して往へつせつこの程も糧よ若
 つめらまの多うりけまの家の内乃ものい藤食を
 ちとして兼て往へ一穀物とい次乃年あつてよ強りあ
 く施しあつてつらあつたのうつ程まよあえてそれ
 奉れ三月癸亥ありさかて後大町村よ火あり
 つ時火よあつらものよ六十俵乃自米とめつと



同ころ六年も大町組乃村ころりしひあへりし
 らの責にせぬふ二十名の業をせしむるに
 凶年の後報若小迫りし情をふまのよの必物を
 ころせし程もころしての家産も傾きころりし親
 族の誅めしむる人の整裏いあらしめ定むるに
 もあらずと今人並ふ世と後めしころもの凶年に仇
 もも及も報いころりし人よの子孫のいめよ
 をのつころりしころりし人よの家産と後めぬ
 ろともいころりし人の報殺と余はよのあつしこと
 せぬもの事とせぬよの各事とせぬこのあつしと書かぬと
 しめしめて耕作の力をころりし人もころりし孫の農事
 と勤めころりし人のあつしめころりし農家の勤め
 ころりしころりしあはれかけし報して子孫さつしめ
 とるころりして洗ひしころりし大町組乃村ころりし
 ころりし報よあつしめころりし昔ら儉約をころりし
 ころりし報をこれしと傳ふる事ありしに年々遠く
 日ころりしてあらぬ業食とせしころりし家のうち
 のもれ歩款とせしころりし男乃妻の然るころりし
 強しとせしめこれらも今ころりしころりしめめとせし
 礼の家産とせしむるよのあつしめころりし後も報り

かねてめらる人あつたはくさんのお志ありては
 めどもさうとらつたれ事 質素なむしりて
 のもれをもつ子も諭してさすの初ひもさう
 めそのゆゑ奇特な事とも領主に受名て同
 七年三月迄稱してともさし賞を授けける

孝行者たよ

たよの安曇郡塩碓新田村の百姓織右衛門の母あり
 二十の時父乃助右衛門よとられけるは姑とて
 不嫁乃ものると父母の家より帰して毎ひ人の
 ぶかしのひくことさうにさしつゝは
 例よありておさるものおひさしともさ
 していつて姑の事ひよのをさうさの初
 ひ正くせふりてて養業の悔ひとふ家乃た
 ころとて孝行もとらるにありぬ
 つらおひのおよ男女とめくさとも男
 耕作といとまその子と教ふ事も稱ん
 ありては織右衛門も又おめやうの生
 業の怠らと二人の娘をもさうにさ
 織右衛門も妻むとて姑のふさう安
 さま病乃之のありぬれは食料も
 個

てあつてつ子も榮と好めつよりしてつやとてあつて
くつこ榮と好むへ人の珍うしてつ品をさつる時と
とつやうよ是とつめ朝夕の食も箸とつるを
されはさつてつてつ事なくつらの衣服といつ
てつとつ事毎子自ら織て姑よ若世後つ時つ
も例をさつるはつらつつ忍ぶ扱ひつらつは年とつよ
つとつ風のつらつよあつとつおつもあつ稱ハ二役を
とりおつめ腰膝をさつとつとつそのおつ服は
燻め其の日の園庭をいしてあつとつ榮とつもつらつ
せんして人のつとつつはつはつとつつとつ
お年のつらつつらつらつも姑のつとつとつとつ
とつ耕作を二所之家とつ治る事つたつとつ
あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつ
獲つらつらつらつ

潔白者友治

小縣郡皆拭村乃友治といつらつ田島もつ記
百姓もつらつらつ馬鞍村の熱玄清といつらつ家
子もつらつらつらつらつて日つ小娘人のつ物
負せつ残をうけつ世後つとつらつけるつ天
八年四月十六日回つ松本旅の飛脚とつ人のもつ

荷物と馬小負を例の如く上へ城下系町ある井
 筒登後吉といへる様乃者りに送りつ巻その海
 るさに祝言初村といふ所の馬宿より俵らひて留
 うたんとせりよ馬に腰拭乃内より十四日ある
 らむとえ由る包とて金の出けきハ後治大よ誓
 こその所よ形巻を懸してとて家より送りよ
 うくと告しよこまの海り日比あめわのありよ
 て種つとてとらよハ我とあらめとつひこれと
 ハ程もんあらあこと中とて飛脚乃その
 期とて出立けおに飛脚乃言のもえ海りて尋
 ぬる程よとてとらよとてけり後治おの
 せりあやとてとらよとてあやとてあやとて
 くと善いそれハ速よ金先出と封せとあふ
 て久しあやとてと飛脚ハあめあらと悦ひ
 乃料ありとて二百文の残とせつ後治ハ
 もいふとてとらよとてとらよとてとらよと
 うけとてとらよとてとらよとてとらよと
 八その事ハ七月終とあこて終りて

忠義者若き浦

孝義録卷十

四下

若き清はる家の様下町乃高入六左衛門つら子代
 あり六左衛門の父と志右衛門といひてよつたよ高と
 うせその妻も年以申風を好ひたりとらもよめめ
 やうよ扱ひ其子の六左衛門ま媽のよのよ年久く病
 てうせちあし一はも残りこころあく命抱しそ然乃
 事海く慈よとらうひ數十年のあしこころをそ
 してそつらんらん六左衛門つら子も又志右衛門といひけ
 らの家をつら子治善法よ向ひて別よ高ひと
 うせん料よあし一の金どもあしこ小家つら子も
 せありしけせと今八家つら子とらうひあはれ
 ころ事もふよ任せと治味増やうのわい終へあれ
 ころころいひて目く様下町乃高入六左衛門つら子
 善法もこの困窮をかうして志りつれかうし
 可といひて目く様下町乃高入六左衛門つら子
 らのわいひ終へん不子もあしけせはらうくし
 高ひもあらは行差ると遊のくまひしこせ
 治とあし一これ馬出とらうし役よとらうし
 人のもとらうし又一斤田舎らうし雇ひらうし
 五小代とらうしその役をつとめらうしめよころらうし
 慈よつらん今の然ら小志右衛門の妻も病てうせ

一云大津のもろく續て奉仕好ひし一りの家の
 後日とく命抱ふ心成さうせふく後ハ舞田の
 貴とも人よかりもらぬ又いさの終へあてかへてこの
 如くよむとさうとさうて後ハ人の稚子とりのさ
 て夜の暗つとさうハ自らハ終乃家子終てあ
 ひ清め又いさの才是もくあうさよ福してい
 へつこれとら世用ゆてとてさけるハ家継とて現
 へはさるあかりけん親族乃らりて家材をさ
 里て債をつくのいさ人の子とハ世の道くハ家
 よひとらりてとていさかんらうさめけるさういん見
 乃久美吉身の仙次郎といはるハもの心とも毎ハ忠
 孝ハとてもありぬハ忠孝と女子のハ業よあれると
 若き清と父とも母ともたのむハ彼ハ懐をさ
 る連て人の祥よどりある事も是末さく若き清
 も海いささうとて教よあひとさうにもの
 をも志ありあらんまてハ一機のものさわらしてさ
 ともさうくしてあふハ忠孝ハと強よあてさ
 の忠孝とさうて忠孝ハと領直に忠孝ハと
 ハ忠誠を稱して終さうとていさのハ忠
 天明元年十二月乃事ありとて此後仙次郎ハ自

一 藤下の法町よとよむ高人の妻子女あり一 兄名
久米若ハ飯田乃藤下に養ふ事としたりし事しつみけ
かたはよ通入るは必皆去流の件とやらうにせしめあ
りつてしてひかり女子ハ寛政の令もたれん建しつも
とふらんありけり

孝行者つら

つらハ親病即金澤町乃百姓者口麻の妻あり男ハ
千六歳とせしよりせ姑ハ十二年ハ病なく七年この
ころハ身もろくくわくもろくもろくもろくもろく
いづち終るもろくもろくもろくもろくもろくもろく
よ酒をこのころハ母ハ病ありては母ハ病ありては母
とせしつらとせしつらとせしつらとせしつらとせしつら
も日毎の買とつらのきんおれとつらとせしつらとせしつら
その妻ハ金と目いふことハ慶と拂てとせしつらとせしつら
くやはせせと初とて人稱とせとつらとせしつらとせしつら
とせしつらとせしつらとせしつらとせしつらとせしつら
あやまのあやまのあやまのあやまのあやまのあやまのあやま
かたはハ日修しよ出るといふも昼飯の法ハ必ゆつて
食物をあこへ修しつらとせしつらとせしつらとせしつら
と例乃金も姑のころろろろろろろろろろろろろろろろろろ
とせしつらとせしつらとせしつらとせしつらとせしつら

とうとうこのまのまゝにしてやうくはれを志のげらあひ
 とはる事とせむいあつてけさ魚をもよよむじゆふに
 一價あるとけいさつらこいを漁り集り人お貫ひ
 かとついでくしてふらうとあめそのさうりて天の六年
 播種あつくも作りの播種もつらありてと書の本
 ちるの料ゆらうと移へ書つてとも姑乃をのくとも目
 次よありぬらと悲しこの播種を種くみして目
 小とらめとてい書の編くはこてもさういふ姑ま
 りも志らうとめとあつてありてさういふの衣と書
 て編業の久正月の男姑よをめん種はらうて移
 へる村長も孫よ懐し紗をよこへて軍のありてに
 海成ハ種くのまのを種くとて姑の求めをあらとこ
 姑も悦ひ訪ひらるるのあまハ奉成病てあともあつ
 たら孫と衣服食も事たてて物もふらうとて書
 やらうといぬ事志らうと姑の孝養あめやうらな
 らうと書しとてかた澄りてと述さかたりものものと
 書して女子と教ふら種とをあげら姑ハ七十六有あ
 寛政元年よりむらむらむら、延福の為ゆらうと乳のこ
 んどおひつて同國川中橋の若光とよ福とくしれ
 んらう事とも領とよとてえ今れハ同と二年

海成ハ種くのまのを種くとて姑の求めをあらとこ

寛政元年よりむらむらむら、延福の為ゆらうと乳のこ

十月そのころに此米と抄とをくらひて賣しし事

忠義者叢助

飯田乃城下松尾町二町目の高人叢助ハ十七の時より
本町よりとむ小右衛門といふものよ奉と限白とては
へくさうい海ぬる後も程まめやふ仕へる一ひ五人
も感して手訓書く業を世後のためたつことあり
かゝるにへくさういひまをえかといひして暇とと
らせけりよもらうりさるおぬもゆえ孫ハ今より後
ハ小作をとり又ハ日傭の業といふとてけ家の事
十八年よりけ松尾町よ借取してととせけるにさ乃
孫の小右衛門の世よりつりて家産と考ひられハ叢助
深く歎きしてこの家よ秘とらるれば事一人ふと海
ぬやうよらうりひさり松らふまの親族おとらり
て小右衛門の身ハ小源とといふものよ別よ家とらり
あこへ挽つくら家よゆさうよりせき業とらうりつ
めんとつひひらると叢助受て奉為さる人ののけられ
てして一人居あらん事松らへくさうとらよもめくに
も家取としよよ何せあつてく小源とてさこの家
よまのい家職とてけとて小右衛門の力らもふりぬん

とうとうとちよひ申しめ日くも浅田町乃深八といふもの
 の許りやうて彼も業をさうらひせぬおひらきもていも
 さら事あるは風をむいともさうことさうさう
 つゆあつてはひゆりさ友の許りも折うらた申葉
 やうれきのを携へけしあしと振舞ひをもち
 あらうともいふゆきあつと頼とゆえんとのう衣
 服のゆきあしとさうらひられとも小深たに
 小深葉とさうらひく志あしとさせまぬのも
 敬ひうつこのさあつと推と娘ともさうらひ
 めく飯ゆきもまね乃さあつとさうらひめし
 日備の業をさうけとける小右衛門の不用ある付
 作乃信の進乃徳つ事とも祥とさうらひ
 うふと乃用と毎して價をもうけさうらひ又兼
 てさうらひに依り出せる種くれ初極と行へ
 ことせよといひ小右衛門を家よ拓くもてさうらひ
 事今にさうらひてさうらひ事あり小右衛門の母は乃
 之幸とさうらひせける今このさうらひも後助のあ
 やうありし事とさうらひあつと家あつとさうらひ
 申あつとさうらひといひあけり祖父の世より建
 つく今の小右衛門の田町よ移りし後中とて代さ

の忠ありし事領主の御えらく御和申す二月
獲第の第とこそくどとらせらる

貞直者た巻

伊那郡下市田村よたけといふちもりあり其の國
七とく彦彦といふ者の門ありしとありそらうむと
る毎に二葉よるる花とらふ男子と遠しとす
年若よりせぬこのやく貞一はせしと若しと男
のいふよどくれておとあつらひるをむひて遊あり
久しふげと年つらふのあもも若くはるむは
亦信物見よおとこらふおのこむいそれんを對め
病よおけげの後のむいカやうらむいしんまの
好あるおくそむはらふ事らむらむあやう
ふ抱せりそく女史のさくありしは年もあし若
うしむの縁とむむものありきれともむい
る毎とらしていむいん事らむらむいしんまの
つひ倦んらとらむし構へらむのあはらむと
とらむもりれとらむのふらむをいし乃葉らうら
の下終とあせしむらむ彦彦家産とあさんと
知しよ見えしうらむとあむらむし箱金のい
ぬあがりらむとむらむとらむらむむはあら



用渡りかへる事とてきりきりしつゝの差籠もとり
志忠感しつゝの波り裏とて懐きてあつく礼ひいて
返しけり小程もこころ祿えもさうさうておさめを
さうさう二月夜に母乃八十七よてうせりあつ時々の金
をへくあつて後の事といはるゆせつとれん
る事とも願主の事えく来そこころとあつて
の明和四年十二月の事ありけり

孝行者とよ

こよ、佐久那八海村乃百姓深志忠の母あり夫は忠若
とてあつて死し忠代わりのあつてとて男娘を養
ひ二人ともよきおえてい祿りしはこれの報とてふさひ
祿してあつてつゝあつてあつてそのふたふた
かゝ或時姑乃るやあゝ兼よとてえうかおつても秋
の事いそつてつゝこのも産よありとてるるを姑の
ふさつその例よよひて彼の膝を捲よしてふさつ
祿これいそつてつゝあつてつゝあつてつゝあつて
目見るや初めつゝあつてつゝあつてつゝあつて
乃末と人のあひあつてつゝあつてつゝあつてつゝあつて
七女席のむの目乃ともつとて謙よてあつてつゝあつて
あつてつゝあつてつゝあつてつゝあつてつゝあつて

花いさくも咲あんをぬらんをいりてりあひとあふ
よきことりてか歎さうかと思ふも志すせよと
めやくよ諭せりてその孝行乃あはれく徳に
若るまのありきれは安永元年三月勅をよめて
賞せり

孝行者實之垂

佐久郡下之味村乃百姓定之垂父乃名と八右衛門と
いひてりつるる田畑をりら馬をもつてて耕作
せり多福のく産業の意をいして不暇ありて
短業ありまのふれ人の交りも睦しつるあはれ
い父のい事ゆりてまめやうなら生質なること農事
をまげて父母た二人の妹と二人の力よと孝行
申りも孝のふゆく朝夕の祀事とてめらるる
乃板ひ懸ありき父がこのぬくの病志かたのあとも
ふよ任せぬよ果はをわけて定て垂と量初のお
とくよのい時作ともうらと耕作乃るうらぬ
事いひてりつるつらむよ志しつるいさく
うも我ふよあうせよと隣家との組合乃ものもんを
とんさとのり仕事は省くとも若くも誂る
まはらまのふらふよのいりてりも父の志を

あり種ありし入事といふ事も其時を夫いて
稼穡もかしくわらしくよ多くありぬるを村の長も
くつらいつらいつらして志ありて誅をせよと父の事
といふて西をあらめ細らふと西のえける種よ後のいひ
も出よと志のあらんと父の助ありて事といひ判
まどめて実を並せよと志ありて種を首を
事れ者よあると組合の事も多しふて村の長
よつげ長の家よそのつらとせよといふことあり
縁らつて父の事ありていふことありて事もいひ
進らありしといふ事ありていふ事ありて事あり
ありて例乃いふ事ありて事ありて事ありて事あり
ありて事ありしといふ事ありて事ありて事ありて
よかきおめけしとも親のいふ事ありて事ありて事
いふ事ありしといふ事ありて事ありて事ありて事
妹をえ進くよ嫁らせよいふ事ありて事ありて事
ぬまひしといふ事ありて事ありて事ありて事あり
あこへ又菜と好とけしといふ事ありて事ありて事
是耕作乃勤よ疲れとも夕よゆりていふ事ありて
例をさうといふ事ありて事ありて事ありて事あり

事領主小守左衛門安永六年二月復美の勅を
 あつた母もやうく小妻へ胡夕の管をもたせしめ
 かくあまうらにささめみせれうくさめを同族に
 浦村より妻と娶らせしよそれも又まよあひて
 張若といふと父母の事いひよかどさうして總計
 乃業もいひのゆゑに福もいふさうき来りし衣服を
 まよあせし後自実より入しこのい又も領主の子
 こえうく天明七年十二月妻よも叔をあつた村人もそ
 のいひしりさうさめく物をさうりしさう

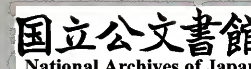
奇特者高橋傳六志業

高橋傳六志業の住久那山村の百姓あり、幼く候と
 してはの新田と支配して世々豊ふらうし家と継
 ぐる初田白田の言とつふらうしよも二十石あ
 けりといふと別よさうしめらうし傳六志業とい
 稱めく篤実なるも乃より村のあらうしよ福ら
 といふら川先祖乃後をさうしといふも改めはよ
 く月の程を毎へく奢れる事さうし夜食もめ
 つふといふと目さめよあし家富るよしもあは福と
 事毎らるうしといふと凶年のこととけよしといふ
 空秋の實のうしといふといふといふも用うる事

ちし殊よひ新村の民の家居もあつて格めくおまふ
 けりしと他必乃民の家産とあひし妻子とあつて
 さぬらひあれらばとて年々つてその家よきまひと
 て入らるりて試みお國より送り文をとりて
 家産農具あつてもあつて領主おつけくお村の
 民乃教よりお進げの兼てよりかゝるうらひも
 の教多く今も山新村より二十名新郷の懐より新
 へしてとあり又新治をききひとまゝ農具作せ
 たり九年とられたの因作より後いそしやとあつた
 同さうゆ稼穡あつりふりの移へてとる教も
 取つて後いそしやの年もお村よりよ及ぶと隣村
 中ても傳へるおつて情よ新りしとあつたり記志
 ころあつると年毎小十俵の教を出して村長の行
 に移へてせ年あつたりん時あつたを越え料とな
 しぬ然らば今来りれまのと兼て任ぬる組乃百
 姓とて隔つるさぬらひとん今れは傳へるおつて又も
 て村人の列よ結ひし後いそしやとあつてめらる
 組乃百姓のさぬらひ扱ひし後よその文を乃つて
 賤くあり家産おとせりて農民乃け村よ来りし

も又多うりしとて傳ふ者其の後よの田畠ども
ありとて旨み申名あり此を指らるりし人の
の爲よ成を費よと事多うりし人のさせる徳も
あつらつそれ身をつまやうして程も人を救
はん事とてそのけのゆる奇特乃とてし領主
小中へえられし録よ復りてと箇字と名のり
かど事とて事ゆせしと天明と年の事なり記
孝行者 孫若八

孫若八 更科那川中橋今井村の百姓松右衛門の子
あり母ハ孫若八の母の位なりわらうくとな
やとて醫療の強る事このこあつとやうくよま
これハ父乃松右衛門も位方とて縁らうて同村子に
む兄年若八の許よ進せしよ年若もあまし
とて事とて願ひ別よ小家を作りて住せしと孫
若八是と傳く歎と雅好ひよも事ありとて明
善母とてこの事とて人の子の事とていふ家子と
に見もつと孫といふもその心よ進をと人乃
葉子とてあつと事ありとてやうよ持来り
てとてめ殺事とて方強るところとて今抱しぬ
然らうの父乃孫よ實く成りけしハ十九乃義

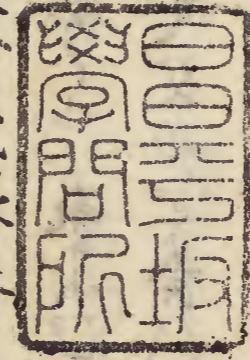


目村乃依云清といふものよ奉を賜めて仕へ母乃
詳へも程逃げ事いふの賑と何いやらこれをはりて
志むく傍いり夜食を心乃及びん程ハまろこま
の家れ勤め疎りあら孫いふものも又まろひまの初
て後母の病まろひまをいけまろをいひ人として
兼い家よ遠いん事と父よまろひまのまもりれ
孫いれやまろひまの初め組合のもれある組合
ちを頼まろ又もまろ事恐ありまろ父もあ
まろやまろひまのまろにまろハ孫まろハ軒まろ
流いこのまろ母にまろまろと母も又うけまろま

まろくまろ程ふ母乃病強りあくまろれハまろ乃
かくに家よまろひまのまろもまろ小賑をうけ家にいり
て父母を養ひ人の田畠と小作として力をまろ父の田
畠ハまろの田畠ハまろありまろとやらくふまろ
そまろ今ハまろ之まろまろありまろくまろを
孫よ生賃まろ和まろ郷里のまろくまろむまろ
りまろこの村乃長くと地路まろまろ小寛政三年
十月敷をまろへまろ稱美路り

孝義錄卷十

十一



孝義錄卷之十

